

感染症発生動向調査委員会報告 1月

今月のトピックス

- インフルエンザが警報解除レベルの「10」を下回り、1月21日警報が解除されました。
- 焼肉チェーン店での腸管出血性大腸菌感染症の報告が相次ぎました。
- 感染性胃腸炎が増加しています。
- RSウイルス感染症の報告数が増加しています。

平成21年12月21日から平成22年1月24日まで、ただし、性感染症については平成21年12月分の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成21及び22年 週 - 月日対照表

第52週	12月21～27日
第53週	12月28日～1月3日
第1週	1月4～10日
第2週	1月11～17日
第3週	1月18～24日

全数把握疾患

< 細菌性赤痢 >

1例報告があり、渡航地はマリでした。渡航予定の際は、予定地の安全情報を確認しましょう。安全情報についてはこちらをご参考下さい。 <http://www.anzen.mofa.go.jp/> (外務省 海外安全ホームページ)

< アメーバ赤痢 >

4例報告があり、前月の追加報告も2例ありました。うち4例は国内での感染が疑われます。アメーバ赤痢についてはこちらをご参考下さい。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html> (横浜市 衛生研究所)

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

5例報告があり、前月の追加報告も2例ありました。うち2例は、同じ焼肉チェーン店での感染です。他自治体からの同チェーン店での感染事例は20件以上と多数報告されています。外食、中食、内食を問わず、肉類の喫食の際の十分な加熱について、注意喚起が必要と思われます。

予防対策についてはこちらをご参考下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/za/0818/c07/c07.html> (厚生労働省医薬品食品局)

< HIV感染症 >

3例報告があり、うち1例は既にAIDSを発病していました。また、うち1例は梅毒との重感染でした。

HIV感染症に関しては、薬剤等治療の進歩等著しいとはいえ、AIDSの段階では治療に難渋することもあり、早い時期の診断が大切です。

HIV感染症についてはこちらをご参考下さい。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html> (横浜市 衛生研究所)

< 梅毒 >

2例が報告され、前月の追加報告も2例ありました。性感染症は予防が何より大切ですが、ここ数年報告数は減っていません。性感染症に関する正しい知識の普及が必要です。

性感染症についてはこちらをご参考下さい。

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/343/tpc343-j.html> (感染症情報センター)

< 麻疹 >

3例が報告され、前月の追加報告も1例ありました。ワクチン接種前の1歳児の感染も報告されました。1歳の誕生日を迎えたら、すぐにMRの予防接種をするよう勧奨する必要があります。

麻疹についてはこちらをご参考下さい。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/measle1.html> (横浜市 衛生研究所)

<バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症>

前月以前の追加報告が10例あり、8例の耐性遺伝子がvanCで、1例はvanB、1例は不明でした。臨床的に問題になるのはvanA、vanBですが、通常無菌であるべき検体よりvanCのVREが検出された場合も届出が必要です。VREについてはこちらをご参考下さい。

http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g1/k02_16/k02_16.html (感染症情報センター)

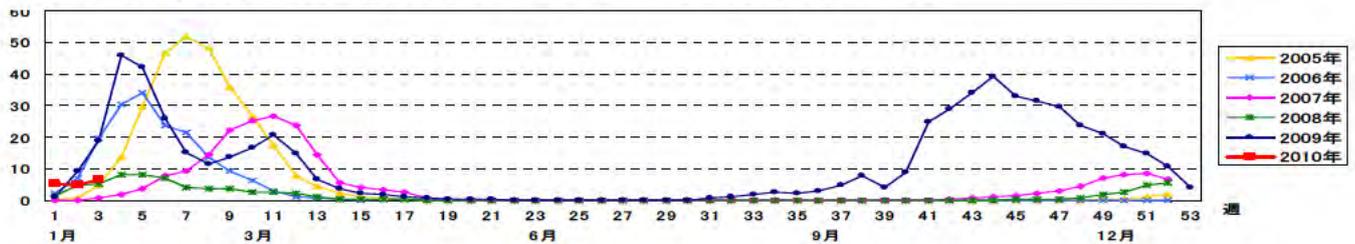
定点把握疾患

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

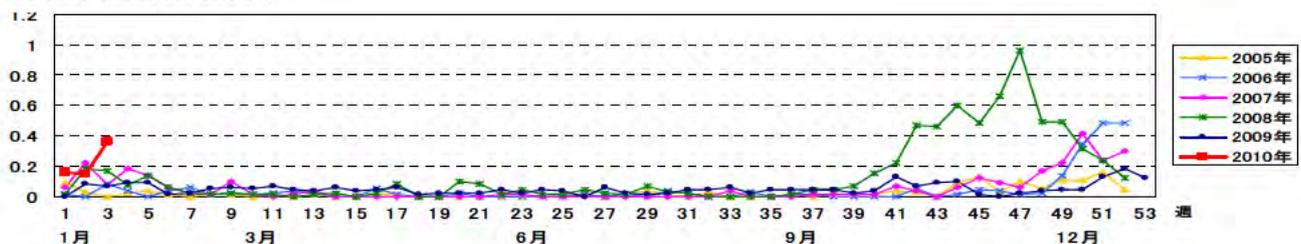
<インフルエンザ>

市内流行状況については、第32週(8月3日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数(以下略)1を超え、第44週には39.18と今シーズン最大となりました。第2週は4.70でしたが、第3週は6.70と微増しています。全国で9.03、神奈川県(横浜、川崎を除く、以下県域)では8.00、川崎市7.28、東京都6.59でした。定点医療機関からご協力頂いている迅速診断キットの結果は、A型744件、B型7件、AB陽性が4件でした。施設閉鎖は、第44週は269施設、患者4969人でしたが、第2週は5施設33人、第3週は14施設123人とやはり微増しています。1月28日現在、季節性インフルエンザは検出されていません。



<RSウイルス感染症>

例年冬季に流行が見られる小児の重要な感染症であり、第3週は、0.36と増加しています。全国では1.30、県域では0.57、川崎市0.38、東京都0.60でした。この時期では過去5年で最大の報告となっており、今後の推移が注目されます。

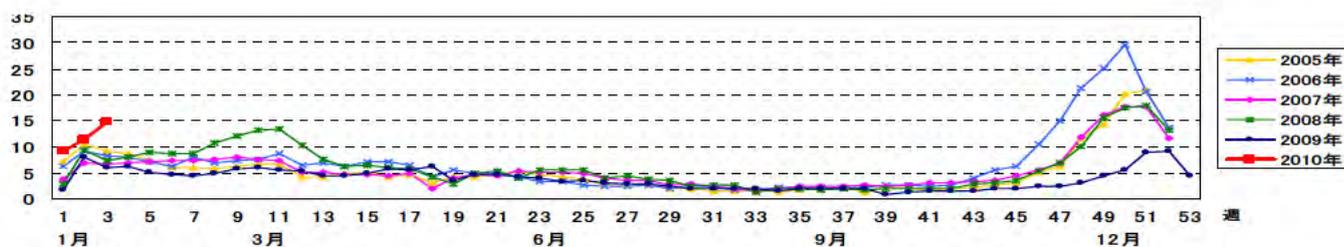


<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第3週では、1.83です。過去5年間でも高めで推移しています。行政区別情報では、港北区7.00、磯子区5.33、栄区3.67と続きます。全国では1.33、県域1.02、川崎市1.09、東京都1.60です。

<感染性胃腸炎>

第3週では14.86です。例年11月から立ち上がり、12月にピークを迎えますが、今期は1月に入って立ち上がり、報告数としてはこの時季では過去5年間で最大となっています。行政区別では緑区31.33、神奈川区25.50、旭区24.17、泉区20.00と4区が警報レベルの20を超えています。全国13.81、県域17.53、川崎市19.44、東京都16.65と、近隣自治体も報告数が増加しています。市内では集団感染も報告されており、今後は例年のように立ち上がってからの数週間は増加傾向となるのか、今後の動向に注意が必要です。



<性感染症>

性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

12月は、11月に比べて全体としては大きな変化はありません。性器クラミジア感染症は、男性14例、女性18例でした。性器ヘルペスウイルス感染症は男性6例女性4例です。尖圭コンジローマは男性2例女性4例、淋菌感染症は男性11例女性2例でした。

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/343/tpc343-j.html> (感染症情報センター)

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

<ウイルス検査>

2010年1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点38件(鼻咽頭ぬぐい液36件、ふん便2件)、内科定点14件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点3件(鼻咽頭ぬぐい液、髄液 ふん便各1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎19人、インフルエンザ13人、RSV感染症3人、胃腸炎2人、伝染性紅斑症1人、内科定点はインフルエンザ12人、気道炎2人、眼科定点は急性角結膜炎2人、基幹定点は脳炎・胃腸炎・気道炎患者各1人でした。

2月10日現在、すべてのインフルエンザ患者(小児科定点13人、内科定点12人)と気道炎患者(小児科定点3人)合わせて28人から、新型インフルエンザウイルス(AH1pdm)が分離されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者11人と内科定点1人からAH1pdm、小児科定点のRSウイルス感染症患者3人と気道炎患者6人(このうち5人はAH1pdmとの重複)からRSウイルス、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、伝染性紅斑症患者からヒトパルボウイルスB19型、小児科定点の胃腸炎患者2人からそれぞれノロウイルスG2型とアデノウイルス(型未同定)、また基幹定点の胃腸炎患者からもノロウイルスG2型遺伝子を検出しています。その他の検体は引き続き検査中です。

<細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の大腸菌の検体受付は15株で、腸管出血性大腸菌は5株(O157、VT1&2が3株、O121、VT2が2株)検出されました。

細菌性赤痢の検体受付は2株で、Shigella spp.(血清型別不能)とS.flexneri 2a が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は5件で、A群溶血性レンサ球菌が3件から検出されました。その血清型の内訳はT1、T12、TB3264が各1件でした。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の検体受付は2株で、いずれもコアグラゼⅡ型でした。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症の検体受付は1株で、van A遺伝子が検出されました。

また、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の検体受付は1株で、バンコマイシン耐性遺伝子は検出されませんでした。